

# 岐阜県郡上市及び周辺地域の方言における敬語表現

## — オイデル・ゴザル・ミエルの違い —

鷺 見 秀 樹

### 1. はじめに

本論文は筆者の故郷である岐阜県郡上市の方言についての研究であり、その中でも移動・存在動詞の敬語表現について着目したものである。共通語では、「行く・来る・いる」の尊敬語を「いらっしゃる」と表現するが、郡上方言では「オイデル」「ゴザル」「ミエル」という3通りの表現を用いる。どの表現も幼いころから聞き慣れた表現ではあるが、意味の違いなどがあるのかは定かではなかった。

先行研究では、山田（2009）の中で「いらっしゃる」の方言語形が調査されている。郡上市大和町以北でのみ調査が行われたことや「ミエル」に関してデータの収集がほとんどなかったこともあり、「オイデル」「ゴザル」の違いにのみ触れられており、「ミエル」についての比較はない。また、3種類の敬語表現にどのような体系が存在するのかを分析するには、さらにデータを集める余地がある。郡上高等学校方言研究会編（1951）において敬意の高い順に「オイデル」「ゴザル（オザル）」「オリヤル（オヤル）」という表記はあるが、「ミエル」について記述がないことや、記録としてやや古いこともあり、現代に変化が起きている可能性もある。

そこで、本論文ではまず民話集での調査をおこなった。さらに、郡上市全域及び周辺地域でもアンケート調査を行った。3通りの敬語表現「オイデル」「ゴザル」「ミエル」は、男女によって使い分けがあるのか、敬語を話す相手への敬意の差によって使い分けがあるのか、話者の住んでいる地域性による使い分けなのかを考察した。また、方言話者に面接調査を行った。敬語を話す相手として26通りの人物を挙げ、話者にどのような敬語使用の体系が現れているかを考察している。

### 2. 先行研究と研究の目的

郡上方言は、岐阜県美濃地方北部方言として位置付けられ、文法表現に関しても、その地理的位置から岐阜市などの美濃南部との類似点・相違点を併せ持つほか、飛騨方言との共通点も少なからず見つかり、岐阜方言のなかでも特徴のある方言である。山田（2009）では、郡上市の大和町以北において「いらっしゃる」を「オイデル」と「ゴザル」で表しており、「オイデル」の方が多く用いると述べられている。また、敬意については「オイデル」の方が丁寧な言葉であるとされている。

菊地（1994; 1996）では、話す場面や話題、会話する相手との人間関係といった社会的ファクターや心理的ファクターによって使用する敬語の語彙が変化すると述べられている。

山田（2009）の調査範囲が大和町以北と限定されていることや「ミエル」についての記述がほとんどないことから、当方言の移動・存在動詞の敬語については、さら



に分析を深めることができると考える。そこで、本研究では、郡上市全域及び周辺地域へのアンケート調査を行った。加えて、菊地(1994; 1996)で示されている社会的ファクターや心理的ファクターによって、使う語彙が変化するかを調査するため面接調査を行った。過去に行われた調査と比較し、どのように方言が変化しているのかを記録すると同時に、地域に残る伝統的な言語文化を保存することを本研究の目的としている。

### 3. 調査と分析

#### 3.1 調査方法と調査対象

調査方法は民話集による調査、アンケート調査、面接調査の3つを行った。それぞれの調査で男女別、年齢別、地域別、敬意の対象別に、「オイデル」「ゴザル」「ミエル」の3種類の敬語の使い分けがあるのかを考察していく。アンケート調査の対象は、現在郡上市内に住む方言話者を中心としているが、地域性による考察を加えるために郡上市と隣接し、関わりも深い美濃市に在住の方にも調査を実施している。面接調査では、細かな人物の違いによって敬語の使い分けがあるのかを主な調査内容とし、郡上市八幡町在住の筆者の家族を中心に調査を実施している。

#### 3.2 民話集『郡上むかしむかし』による調査

『郡上むかしむかし』(木島泉1975)は、著者によって郡上市内で集められた民話集である。話し手の声をテープレコーダーで録音したものを、そのまま書き起こしているため、方言が随所に見られる。この民話集において使われている「オイデル」「ミエル」「ゴザル」の用例を抜き出し、表にまとめ、分析した。

表1 敬意が高いと考えられる人物への敬語表現

敬意の対象	表現
お殿様	オイデル
御院主	オイデル
青山さま	ゴザル
弘法さま	オイデル

表2 敬意が低いと考えられる人への敬語表現

敬意の対象	表現
夫	オイデル
夫	ゴザル

先行研究では、「オイデル」の方が「ゴザル」よりも敬意が高いとされている。敬意の高さで注目すると「お殿様」、「御院主」、「青山さま」(当時の郡上藩大名)、「弘



法さま」が上位だと考えられる。反対に敬意が低いと考えられるのは家族同士での会話である。いずれも「オイデル」「ゴザル」が混同しており、敬意の違いで使い分けがなされているかどうかの判別は難しい。なお、これ以外にも複数の用例があったが、対象の地位がどれほど高いか明確でないため、分析からはずしている。

### 3.3 アンケートによる調査

2014年5月～2015年1月の期間、郡上市においてアンケート調査を行った。対象は現在、郡上市及び周辺地域に在住の方である。調査は筆者の家族や親類、家族の職場の方を中心に行われ、30代～90代の、男性17名、女性17名のデータを集めることができた。なお、調査項目は以下の通りである。

- ① 道で出会った目上の人に、これからどこへ行くのかを聞くとき。
- ② 明日の集まりに来るのかを目上の人に聞くとき。
- ③ 明日の午後、家にいるかどうかを聞くとき。
- ④ 休みの日は何をしているのか目上の人に聞くとき。
- ⑤ 上司（〇〇さん）がどこへ行ったのかを同僚に聞くとき
- ⑥ 上司（〇〇さん）がもうすぐ家に来ることを家族に教えるとき。
- ⑦ 上司（〇〇さん）が隣の部屋にいることを友人に教えるとき。
- ⑧ 上司（〇〇さん）が隣の部屋で何をしていたかを友人に聞くとき。

①～④は尊敬する相手と直接話す場面での使用、⑤～⑧は第三者との会話の中で尊敬する人物が話題になる場面での使用を調べるために設けた質問である。ただし、実際に調査をした結果、直接話す場面（設問①～④）でも第三者との会話の中で話題になる場面（設問⑤～⑧）でも、使用する語に違いは見られなかったため、以下の考察では2つの場面を分けずに考察をおこなう。

また、①④は「行く」、②⑥は「来る」、③⑦は「いる」、④⑧「～している」の敬語表現を調べるための項目だが、①⑤「行く」の敬語表現では「オイデル」「ゴザル」「ミエル」の使用が1件も確認されなかったため考察の対象は②③④⑥⑦⑧の項目に限定する。

なお、「オザル」という回答が少数見られたが、「オザル」は、郡上高校方言研究会（1952）、水谷（2008）に基づき、「ゴザル」にふくめて集計している。

#### 3.3.1 男女による使い分け

②⑥「来る」、③⑦「いる」、④⑧「～している」の項目で、それぞれの語がのべ何回答されたかを男女別で集計すると、それぞれ図1、図2、図3のようになる。先述のとおり、尊敬する相手と直接話す②～④の場面と、第三者との会話の中で尊敬する人物が話題になる場面⑥～⑧では、使用する語に違いがなかったため、②と⑥、③と



⑦、④と⑧を一括して集計した。つまり、回答者は男女17名ずつだが、その2倍の、のべ34回の回答うち、「オイデル」「ゴザル」「ミエル」がのべ何回回答されたかを集計している。ただし、「キテモラウ」「コラレル」「イマス」など、敬語動詞になっていない回答は集計から除いたため、「オイデル」「ゴザル」「ミエル」の数を合計しても34にはならない。

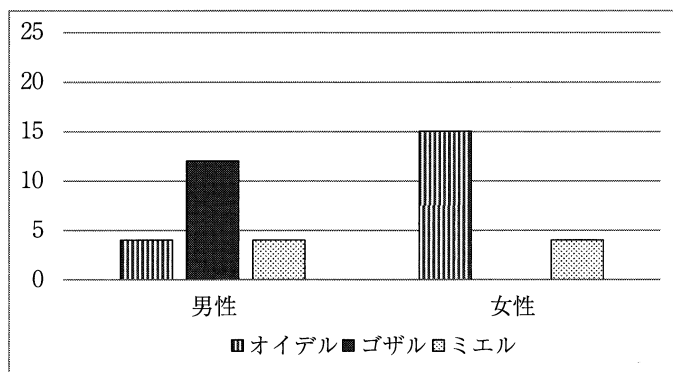


図1 ②⑥「来る」の敬語表現（男女別）

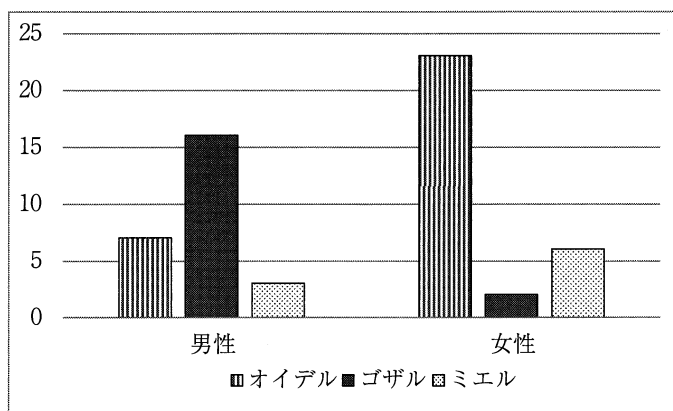


図2 ③⑦「いる」の敬語表現（男女別）



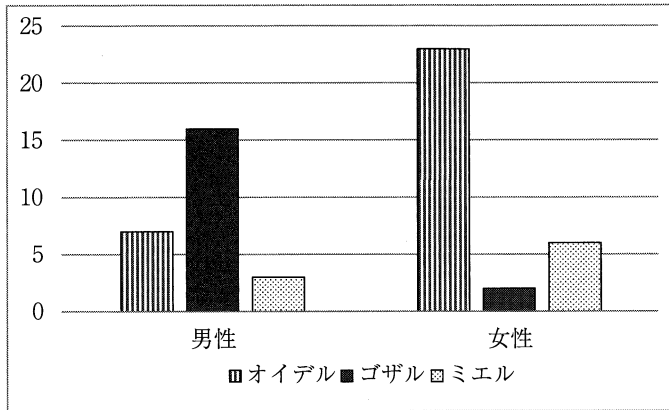


図3 ④⑧「～している」の敬語表現（男女別）

以上の図から、「オイデル」に関しては男性よりも女性の方が多く使用していることが分かる。「ゴザル」に関しては男性が多く使用するのに対して、女性はほとんど使用しない表現であることが分かった。「ミエル」の使用については、男女別で大きな差が現れなかった。また、「来る」「いる」「～している」いずれの敬語表現も女性は「オイデル」を使う場合が圧倒的に多いが、男性は「オイデル」「ゴザル」「ミエル」の3種類のどの表現も用いることが分かる。

また、この傾向は図1～3のすべてに共通している。つまり、②⑥「来る」、③⑦「いる」、④⑧「～している」の3つの意味による使い分けはないと考えられる。

### 3.3.2 年齢による使い分け

図4、図5は、60代～90代の回答者20人と30代～50代の回答者14人に分けて、②③④⑥⑦⑧の項目で、「オイデル」「ゴザル」「ミエル」がのべ何回回答されたかを集計したものである。前の節で見たとおり、「来る」「いる」「～している」の3つの意味による使い分けは見られないため、②③④⑥⑦⑧の6項目を一括して、のべ何回回答されたかを集計した。



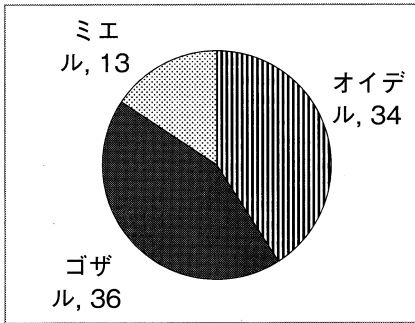


図4 60代～90代の使用する語形

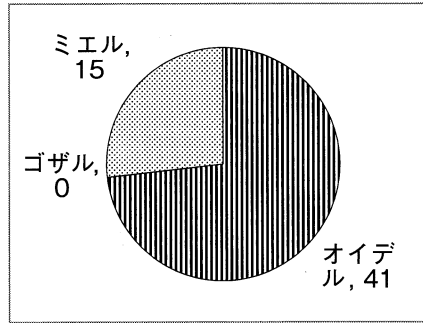


図5 30代～50代の使用する語形

「オイデル」は30代～90代までの幅広い年代層での使用が確認できた。「ゴザル」の使用は60代～90代に固まっており、50代以下では使われていない。「ミエル」の使用は40代～60代と80代に確認できた。また、図には示さないが、30代では、回答者4名中の2名が「いますか」「するんですか」といったように方言ではない敬語表現を用いた。

60代以上は「オイデル」「ゴザル」を使用し、場合に応じて「ミエル」も使用するのに対して、50代以下は「ゴザル」を使用語彙とせず、「オイデル」「ミエル」のみを使用する。また、図で詳細は示していないが、「ミエル」を使用する割合は40代～60代に多いため、比較的新しい表現である可能性があると考えられる。以上の結果より、3つの語形の使い分けには、話者の年齢が少なからず影響していることがわかった。

### 3.3.3 地域による使い分け

回答者の出身地別に使用語形を地図化したのが図6である。図6から、郡上市内でも大和町と八幡町に「オイデル」が多く分布していることが分かる。「ゴザル」(「オザル」も含む)の使用は広い範囲であるが、大和町では確認できなかった。「ミエル」は八幡町や美並町(旧郡上郡美並村)、および隣の美濃市で確認され、南部の方面に多く分布していることが分かった。南部に向かうにつれて関市や岐阜市、名古屋市に近づくため、「ミエル」という語形が岐阜市や名古屋市などの大都市部から流入してきた可能性も考えられる。また、白鳥町石徹白や明宝(旧郡上郡明宝村)といった山間部では、「オザル」「オヤル」など変わった表現が使われている。



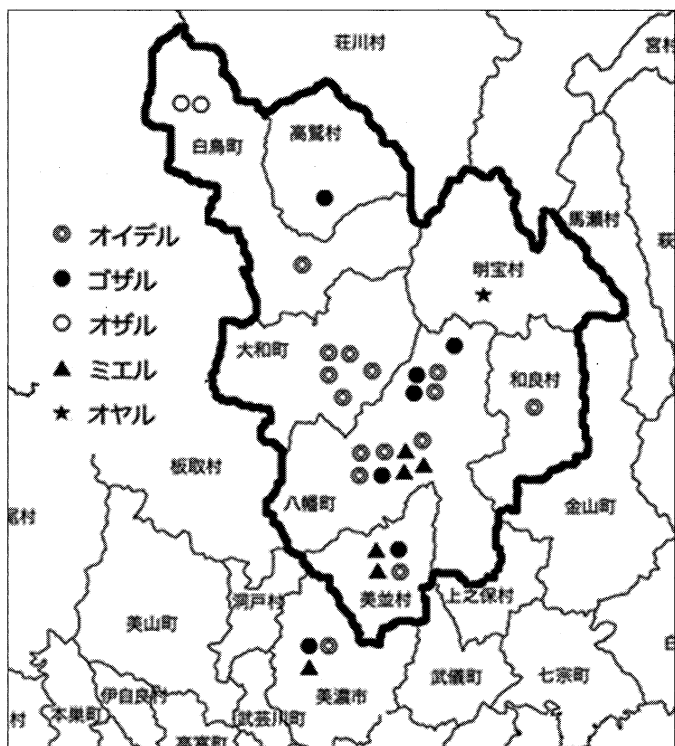


図6 各語形の地理的な分布

(地図作成にあたっては、テクノコ白地図イラスト[http://technocco.jp/n\\_map](http://technocco.jp/n_map)のデータを使用した。太枠が現在の郡上市で、細線は平成の大合併以前の市町村境。)

### 3.4 面接調査

2014年11月と2015年1月に郡上方言話者4名を対象に面接調査を行った。敬意の対象によって使い分けがあるのかを調べることを主な目的としており、筆者宅の近所に住む90代男性、筆者の祖母(90代女性)、父(60代男性)、母(50代女性)の2世代の男女1名ずつに調査を行った。質問項目は以下の通りである。

- ①つぎの人と直接話すとき「いつ来たのか」「どうやって来たのか」「なぜ来たのか」などと尋ねるとき、どう言いますか。
- ②同世代の友人や兄弟と話していつぎの人が話題に挙がり、その人物が「いつ来たのか」「どうやって来たのか」「なぜ来たのか」と尋ねるときどう言いますか。

なお、結果の表の空欄箇所は、該当する人物が存在しない、あるいは話す場面が想定できないため回答が得られなかった部分である。また、「クル」とは共通語の「来る」



であり、敬語ではない表現である。全員分のデータは掲載できないが、90代男性の結果を表3に挙げる。

表3 郡上市八幡町初音在住 90歳 男性の結果

		①	②
年下の家族	息子		
	娘	クル	クル
	義理の息子	クル	クル
	孫	クル	クル
	ひ孫		
年上の家族	父	クル	クル
	母	クル	クル
	祖父		
	祖母		
近所の人	近所の年上の男性	クル	ゴザル
	近所の年上の女性	クル	ゴザル
	近所の同年代の男性	クル	クル、ゴザル
	近所の同年代の女性	クル	クル、ゴザル
	近所の年下の男性	クル	クル
	近所の年下の女性	クル	クル
初対面の人	初対面の年上の男性	クル、ゴザル	クル、ゴザル
	初対面の年上の女性	クル、ゴザル	クル、ゴザル
	初対面の同年代の男性	クル、ゴザル	クル
	初対面の同年代の女性	クル、ゴザル	クル
	初対面の年下の男性	クル	クル
	初対面の年下の女性	クル	クル
立場の高い人 社会的に	お坊さん	ゴザル	ミエル
	お医者さん	ゴザル	ミエル
	学校の先生		ミエル
	天皇	ミエル	ミエル
	テレビタレント	クル	クル

この結果をもとに、家族／近所の人／初対面の人、年上／同年代／年下という基準で、各語形がどのように使い分けられているか、簡単に整理したのが以下の表である。



## ①相手と直接話するときの使用語形一覧

表10 90代男性

	家族	近所	初対面
年上	—	—	—●
同年代	—	—	—●
年下		—	—

表11 90代女性

	家族	近所	初対面
年上	—	—	◎▲
同年代	—	—◎	◎▲
年下		—	◎▲

表12 60代男性

	家族	近所	初対面
年上	—	◎▲	◎▲
同年代	—	—◎●	◎▲
年下		—	◎▲

表13 50代女性

	家族	近所	初対面
年上	—	◎	▲
同年代	—	◎	▲
年下		◎	▲

◎オイデル ●ゴザル ▲ミエル —クル

## ②第三者との会話で話題になったときの使用語形一覧

表14 90代男性

	家族	近所	初対面
年上	—	—●	—●
同年代	—	—●	—
年下		—	—

表15 90代女性

	家族	近所	初対面
年上	●	◎●	●
同年代	—	◎▲	●
年下		◎●	—

表16 90代男性

	家族	近所	初対面
年上	—	◎●	◎●
同年代	—	—◎●	—●
年下		—●	—◎●

表17 90代女性

	家族	近所	初対面
年上	—	◎	—◎
同年代	—	—◎	—◎
年下		—◎	—◎

◎オイデル ●ゴザル ▲ミエル —クル

4名の敬語使用の体系を見ると、①の場合では、各表の右上の方に「ミエル」がたまっていることがわかる。自分より上の年代や関係が希薄である人に「ミエル」を使う傾向にあることがわかる。「オイデル」「ゴザル」「ミエル」で敬意に差があるのかという質問にも3名とも「ミエル」が一番敬意の高い表現だという回答が得られた。また、「ミエル」は郡上方言だという認識がないという回答もあった。「ミエル」は、かしこまった場でも使える丁寧な言葉であるという感覚が4名ともにあることが分かった。

「オイデル」は「ミエル」ほど高い敬語表現ではなく、近所に住んでいる人や相手が郡上方言の話者である場合の敬語表現として用いる。「ゴザル」よりは敬意が高い



言葉である。90代女性に聞いたところ、「オイデル」を使う場面で「ミエル」に置き換えることは可能だが、「ゴザル」は置き換えが不可能であるという回答があった。このことから「オイデル」と「ゴザル」の間には比較的大きな敬意の差があることがわかる。

「ゴザル」は男性的な表現であるということ以外に、①と②を比較し、直接本人に言うよりも他の人との会話の中でその人物が第三者として話題に出たときに使いやすい表現だということが分かった。そして、「オイデル」同様に方言話者に対して使う言葉である。60代男性は「地元で同年代の仕事仲間と話すときに用いる」という回答もあった。さらに、60代男性と50代女性の面接調査の中で、3種類の敬語のうち「最も郡上方言らしい表現」であるという回答があったため、郡上地域に古くからあった表現であるという可能性が考えられる。

#### 4. まとめ

##### 4.1 「オイデル」「ゴザル」「ミエル」それぞれの特徴と使用傾向

###### 「オイデル」

男性女性ともに使用する表現ではあるが、女性の方が使う人の割合が多く、高齢層の男性は使わない表現である。また、比較的幅広い年齢層で使用される表現で、アンケート調査では「いる」「来る」「～している」のどの意味でも最も多い回答数となった。面接調査では「ゴザル」に次ぐ方言的な表現であり、幼い子には伝わりづらいかもしいという証言が60代男性、50代女性から得られた。また、近所の人と直接話すときによく用いられることや女性が多く使用する言葉であることから、親しみを込めた表現、あるいはやさしい印象を持った表現であることが推測できる。敬意の高さによる意識では3つの語形の中で「ミエル」の次に敬意が高いという証言が得られた。高齢層での使用や民話集での使用も多く確認され、郡上地域に昔からある表現であることがわかる。

###### 「ゴザル」

男性が多く使用する表現であり、女性での使用者は高齢層に限定されている。年齢層では60歳以上でしか使用が確認されていない。このことから3つの語形のうち、最も古い表現であることが推測できる。面接調査からも、最も方言的な表現であるという意識が強いという証言が得られている。使用傾向では、会話の中で尊敬する人物の話題が挙がった時に使われやすい表現である。(例：「そういえば、今朝、うちに〇〇さんがござったぞ。」) 敬意の高さでは、3つの語形で最も低く、初対面の人や社会的に立場の高い人には使うことがほとんどない。

###### 「ミエル」

男性女性ともに使用する表現である。幅広い年齢層で使用される表現であるが、若年層の方が使用頻度は高い。3つの語形の中で敬意を最も高く表す言葉であり、初対面の人や社会的に立場の高い人にも多く使われる。面接調査でも、標準語と意識し、



使用している人が多く、気づかれにくい方言であることがわかった。使用地域では、郡上市八幡町、郡上市美並村、美濃市といったように南方に使用者が多いことも特徴である。また、高齢層の使用が少なく、民話集にも掲載が比較的少ないことから、岐阜市、名古屋市などの都市部から郡上地域へ流入してきた新しい表現であることが推測できる。このことは、江端（1998）のデータとも合致する。

以上の考察をもとにまとめると、言葉の古い順に「ゴザル」「オイデル」「ミエル」となり、「ミエル」はあまり方言だと意識されていない。また、敬意の高い順に「ミエル」「オイデル」「ゴザル」となり、郡上高校方言研究会（1952）と山田（2009）の「オイデル」「ゴザル」の記述と合致したうえに、新たに「ミエル」の比較も加えることができた。

#### 4.2 「オイデル」「ゴザル」「ミエル」の使用実態

調査を進めていくうえで、「ミエル」という言葉が新しく、丁寧な言い方であるという意識をどの話者も共通して持っていることが強く感じることができた。先行研究の江端（1998）のデータに加え、本研究のアンケート調査結果からも「ミエル」は名古屋などの都市部からの流入と見て、まず間違いはない。郡上高校方言研究会（1952）では、敬意の高い順に、「オイデル」「ゴザル（オザル）」「オリヤル（オヤル）」となっており、「ミエル」を含めた記述はない。対して、アンケート調査では「オリヤル」という言葉の使用は確認できず、郡上市明宝で「オヤル」一件のみの回答に留まった。実際、私自身も「オリヤル」「オヤル」という表現を聞いた経験がない。つまり、「オヤル」「オリヤル」が段々と淘汰され、代わりに「ミエル」が敬意の最上級として新たに現れたということである。従来からあった言葉と同じく「来る」「いる」「～している」の意味を持ち、標準語と共通している用法もあるため当地に受け入れられやすかったのだろう。

「ミエル」が初対面の人や社会的に立場の高い人にも使えるフォーマルな言葉であるのに対し、「オイデル」や「ゴザル」は家族や近所の人、親しい人に使えるカジュアルな言葉であるといえよう。そして、そのカジュアルさが親しみを表す要因となっており、方言を使うことは自分たちが郡上人であるという仲間意識の確立にもつながっている。特に「オイデル」という表現は前節でも述べたように、親しみを込めたやさしい表現であることから、今でも男女問わず、幅広い年齢層に使用されている。「ゴザル」は男性的な表現、高齢層がよく用いる表現であるため、「オヤル」や「オリヤル」のように、これから段々と使用者が減っていくことが予想される。

面接調査において、90代女性と60代男性は「オイデル」「ゴザル」「ミエル」のすべてを使用語彙としていた。そのような方言話者は、それぞれの語形が持つニュアンスを理解し、様々なファクターに応じて無意識的に使い分けを行っていることが今回の調査で明らかとなった。また、90代男性と50代女性についても、それぞれ「ゴザル」と「ミエル」、「オイデル」と「ミエル」といった2種類の語形に使用は限られるが、様々なファクターに応じて使い分けが行われていた。「オイデル」「ゴザル」「ミエル」を標準語にすれば、どれも「いらっしゃる」という意味になるが、聞く人が郡上方言の



話者であれば、3通りの表現それぞれが違った印象を与えるということである。ここには、岐阜県山間部の郡上地域で暮らす人々の他を思いやる心や、町の豊かな歴史が現れているのではないだろうか。

## 5. おわりに

現在、郡上地域で実際に使われている方言を記録として残すことに加え、3通りの敬語表現の細かな意味の違いや特徴、言葉の新古について推測することができ、実のある研究になったと実感している。アンケートや面接調査を行うことで様々な人と交流ができ、楽しく調査を進めることができた。

さらに広い地域や広い世代での調査を行うことによって、敬語表現の本質に迫っていけるだろう。また、今回の調査では扱うことの出来なかった「オザル」「オヤル」「オリヤル」についての見解や「おいでるかな」「ござるかえ」といった終助詞との結びつきについても、考察を進められるだろう。

## 参考文献

- 江端義夫（1998）「新しい敬語の補助動詞「～テミエル」が保守的な共通語と構想する方言戦略」『国語教育研究』41-1
- 菊地康人（1994）『敬語』角川書店
- 菊地康人（1996）『敬語再入門』丸善出版
- 木島泉（1975）『郡上むかしむかし』郡上史談会
- 岐阜県立郡上高等学校方言研究会編（1952）『郡上方言 第一集・語彙編』私家版
- 水谷美保（2008）『移動・存在を表す尊敬語動詞の変化に関する研究』大阪大学大学院文学研究科博士学位論文（大阪大学リポジトリOUKA <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>にて公開あり）
- 山田敏弘（2009）「郡上方言における待遇表現に関する一考察」『岐阜大学教育学部研究報告』58-1

（平成26年度卒業生）